

## 平成28年度 第1回沼田市子ども・子育て会議 会議録（概要）

### 会議の概要

開催日時	平成28年9月2日（金） 午後1時から午後3時
開催場所	沼田市中央公民館 3階 第2講義室
出席者 ◎会長 ○副会長	<p><b>【委員】</b> 浅沼委員、荒木委員、石井委員、小熊委員、大淵委員、○榎淵委員、◎小林委員、齋藤孝委員、齋藤と委員、塩野委員、高井委員、田中委員、庭野委員、林織委員、林博委員、星野委員</p> <p><b>【市関係者】</b> 狩野健康課長、竹之内学校教育課長、木博学校教育係長</p> <p><b>【事務局】</b> 小池子ども課長、青柳子育て支援係長、見城保育係長</p>
次第	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ（会長）</p> <p>3 議 事</p> <p>(1)「沼田市子ども・子育て支援事業計画」計画事業の進捗状況について</p> <p>(2)子ども・子育て会議専門委員会「子育て世帯が安心できる教育・保育環境の整備についての検討に関する中間報告書」について</p> <p>(3)その他</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉 会</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沼田市子ども・子育て支援事業計画進捗状況（平成27年度実績）</li> <li>・子育て世帯が安心できる教育・保育環境の整備についての検討に関する中間報告書</li> <li>・「沼田市子ども・子育て会議 提言書」の骨子（案）</li> <li>・専門委員会意見分類結果</li> <li>・平成28年度子ども・子育て会議専門委員会 結果概要（第1回～第3回）</li> <li>・委員提出資料 【提案】家庭における子育てを推進するための支援について</li> <li>・「子ども広場」移転計画図面</li> <li>・今後のスケジュール</li> </ul>

議事要旨

発言者	議事の経過及び発言の要旨
	<p><b>1 開 会</b>  <b>2 あいさつ</b>  <b>会長</b>  <b>(委員・事務局自己紹介)</b>  <b>3 議 事</b></p>
会 長	<p>(1)「沼田市子ども・子育て支援事業計画」計画事業の進捗状況について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料1「沼田市子ども・子育て支援事業計画進捗状況(平成27年度実績)」により説明。</p>
会 長	<p>一時預かり事業について、課題として「計画を下回る利用人数となった。利用しやすい制度となるための検討が必要である。」とあるが、具体的にはどんな内容か。</p>
事務局	<p>在籍児以外の一時預かりの量の見込みについては、ニーズ調査の結果を踏まえたものであるが、数値が大き過ぎたところがある。中間年度に見直しをしたい。また、実施か所を増やし、保護者が利用したいときに利用できるようにする取組も必要である。</p>
会 長	<p>特に意見・質問がなければ、説明のとおりとする。資料中「検討する」と記載されたものについては、来年度までに検討結果を伝えられるようにしていただきたい。</p>
会 長	<p><b>(2)子ども・子育て会議専門委員会「子育て世帯が安心できる教育・保育環境の整備についての検討に関する中間報告書」について</b>          専門委員会委員長（副会長）から説明をお願いします。</p>
委員長	<p>資料2-1「子育て世帯が安心できる教育・保育環境の整備についての検討に関する中間報告書」、資料2-2「「沼田市子ども・子育て会議 提言書」の骨子(案)」、資料2-3「専門委員会意見分類結果」により説明。</p> <p>3回の専門委員会で協議した結果を、資料2-3の一覧のとおり5つの項目に整理し、要望として上げるものと実現に向けて行動するものに分類し、資料2-1の中間報告書の形にまとめた。方向性をご理解いただき、提言すること、提言しなくてもできることの内容についてご意見をいただきたい。</p>

会 長 中間報告書「2 子育て支援を推進するための体制づくり」について、全国では「子育てサポートセンター」の取組が進んでいる。子育てに関する様々な相談等をワンストップで受けて、各種サービスにつなげていくシステムである。女性の社会進出を推進するためには病児保育の充実が必要と考えるが、この点について意見をいただきたい。

委 員 重症のときは保護者が看るべきだが、問題となるのがインフルエンザなどの場合、3日程度で症状は回復するが保育園等には行けない期間があることである。保護者の「こんなに元気なのにどうして仕事を休まなければならないのだろう」という悩みに応えるため、医療機関として病児・病後児保育の実施を検討している。放課後デイサービス事業で重症の子どもをお預かりしてきた経験が活かせると考えている。

委 員 インターネットの情報が氾濫し医療に関する知識が増えることにより、逆に不安を感じてしまう保護者も多いと感じている。また、インフルエンザなのに、平気で子どもを病院に連れて来る保護者がいるのもよくある話。感染症情報などが行政から適切に配信され、保護者が正しい知識を得ることにより、子どもを注意して見られるようになるのではないか。

委 員 ADHDや学習障害の子どもが増えているが、受け皿が少なく対応の仕方を学んでいる教育者が日本全国でまだまだ足りていない。学校と教育・保育施設合同の勉強会の開催や、連携する仕組みを構築する必要があると感じる。

会 長 市のホームページなどにおいて、医療機関等の専門機関からの情報を共有できる仕組みがあると良い。

委 員 子どもがひきつけを起こしたときなどには、膨大な紙の資料は目に入らない。子育て中に、インターネットのミクシーで「利根沼田の育児ママの寺子屋」というページを開設し、子育て中のお母さんが書き込みをしたり、医療機関などの連絡先にリンクを貼ったりする取組を行っていた。しかし、個人の取組には、限界がある。

発達障害の悩みを行政の窓口相談に行き、たまたま対応した人に発達障害の知識がなく、自分の子育ても順調なため、相談者の悩みを理解しない物言いをされて、憤慨するという話はよくある話である。電話1本かければ、それぞれのスペシャリストにつながる仕組みが必要。

多勢に合うことは行政はやるが、一人ひとりのお母さんに届くように、例えばコンシェルジュではないが、ここに電話すれば必要な機関につないでくれる、ここに書き込みをすれば、スペシャリストから回答がもらえる、といったシステムが沼田の中で実現できるとよい。行政の方が事務の旁ら

に作業をするのは限界があるので、専門的な人を雇ったらいいいのではないか。

会 長 専門的な人の配置は必要である。

委 員 子ども課に子育てコンシェルジュを配置しているのでは。

事務局 配置している。ご指摘の課題が解決できるよう積極的に活用していきたい。

委 員 発達障害の子どもの増加は、学校現場でも課題となっており、教職員も研修を行っているが、専門家による見立てがやはり必要であり、「このお子さんにはこんな対応が必要」という見解を得たり、保護者と面談をしてアドバイスをもらったりしながら対応している。

子どもの発達の異常に最初に気がつくところは保健師さんではないか。今では自閉症は2歳の段階で発見できるといわれている。早期に異常が分かった段階で、どういう支援につなげていくか、ということが実は非常に大事なのかも知れない。保護者は、ショックを受けるかも知れないが、対応が早ければ困り感が少なく成長ができるのではないか。そして、幼稚園、保育園に入ってから、その情報が活かされることが大切、やがて小学校に上がって段階で情報が共有されて、この子は支援学級に、この子は通級で、という形に適正な指導につながっていくシステムができると良い。

一方で守秘義務という問題もあるが、それを超えて情報が共有できれば、大きな成果につながるのではないか。

もうひとつ大切なのは、保護者が子どもさんの障害についてどのくらい理解しているのか、という啓発である。

委 員 生まれてからの流れを小学校から中学校まで、ひとつのカルテのような形でつないでいければ一番良い。もうひとつ期待したいのは、人口が少ない地域だからこそ可能になる、地域の目、見守りの効果である。「いつも子どもを怒鳴っている」「いつも同じ服を着ている」などの情報が、地域から学校へ届いて、連携して支援できると良い。

委 員 発達障害について皆さんにお話ししたいことがある。利根沼田子ども発達支援センター所長さんと、利根沼田において、発達障害について、県と市など、それぞれの機関がそれぞれの事業を実施しているが、横断的な連携がないという課題があるという話をした。もうひとつ話をしたのは、心配ごとがあっても「障害」という名前が付いていると、敷居が高くなって相談がしにくいという問題があるということ。

そこで、所長さんのような専門家が、幼稚園やこども園、子ども広場な

どの未就学児がいる場所に来てくれて、ちょっと相談ができると、敷居が低くて気軽に相談できるのではないかと話したところ、国の事業で巡回支援専門員整備事業というのが、まさしくそれであったが、沼田市では実施していないとのこと。この事業であれば、それほど大がかりな仕組みはいらないので、すぐに、例えば来年からでも実施できるのではないかと。ぜひ、すぐできることの一つに加えて行きたいので、ご了解いただきたい。

会 長 以上のような意見を踏まえて、意見書に反映させていきたい。今後は、専門委員会を一度開催して内容を詰めてから、最終的な意見書案をまとめ、11月または12月に子ども・子育て会議を開催して審議する形で進めいくので了解されたい。

### (3)その他

会 長 本日欠席の委員からの提出資料「【提案】家庭における子育てを推進するための支援について（参考資料1）」について目を通していただきたい。保護者の負担に関する提案であり、今この場で議論すると時間がかかってしまうため、この場では提案のみとし、専門委員会で意見を聴取することとしたい。

事務局 委員提出資料について、委員から会議でお伝えいただきたい内容についてメールがあったため読み上げさせていただく。「そもそも子育ては大変なこと、決意と覚悟がなければ人づくりはできない、もちろん行政や関連業界は必要なサポートは行わなければならないが、親として覚悟と品格を今一度考える、そんな社会が少し忘れ去られてないだろうか。生意気を言っただけで申し訳ございません。本当に優しい人づくり、まちづくり、社会づくりのできる、沼田市子ども・子育て会議にして行きたいですね。」

事務局 次に、子ども広場について、グリーンベル21の6階に移転拡充する計画がある。（参考資料2）現在実施設計中であり、平成31年7月の供用開始を目指している。スタッフや利用者からの意見をいただいて進めているが、市民の代表として子ども・子育て会議の委員の皆さんの意見をいただきたい。会議終了後でもかまわないので、忌憚のない意見をいただき、良い施設ができるようにしていきたい。

委 員 現在は66.3㎡のところ約20組いて、年齢の大きい子どもは、スペースが足りずに部屋の外に飛び出してしまうこともあり危険である。また、現在は飲食と遊びが同じスペースだが、移転後はスペースを分けることができる。他に親子トイレの設置を要望している。別の階に福祉カフェが入ってくれたら、子ども広場の利用者も低額で食事ができていいと思う。

委員	子育てコンシェルジュがここにいるといい。また、事務室がけっこう広い。スタッフが何人いるかは分からないが、個別相談ができるスペースがあるといい。
委員	子ども課が同じ階にあるといい。
事務局	子ども課は別の階になるが、子育てコンシェルジュについては、子ども広場に置きたい意向である。
会長	実際作ってみたら、イメージとは全然違う、といったことにならないようにお願いしたい。
事務局	<p><b>4 その他</b></p> <p>子ども課保育係1点報告がある。沼田恵保育園が、平成29年度に認定こども園に移行する意向とのことである。現在認可定員140人であるが、中には保護者が仕事を辞めて保育の必要性がなくなり退園しなければならないケースもあり、1号認定でも利用できる認定こども園に移行を希望する、とのことである。県の説明会が予定されているので、説明会の内容に基づき今後進めていき、状況に応じて子ども・子育て会議で報告もしくは利用定員についてご意見を伺っていきたい。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールについて資料に基づき説明。</p> <p><b>5 閉会</b></p>